

平成 24 年度 課題研究成果報告書

平成 26 年 7 月 31 日現在

研究種目：平成 24 年度課題研究助成制度

研究期間：平成 24 年 ～24 年（1 年間）

研究課題名：女性の労働におけるストレス要因とうつ病との関連
- 家事労働と賃金労働の比較から -

研究代表者

氏名：星野 藍子

所属：名古屋大学大学院医学系研究科 リハビリテーション療法学専攻

会員番号：24409

研究成果の概要：

賃金労働でのストレスに関して複数の側面から調査できる NIOSH 職業性ストレス調査票に基づき、家事労働上の調査票 NIOSH-HK を作成し、その信頼性の確認のため予備調査を実施した。また NIOSH 職業性ストレス調査票と NIOSH-HK の二つを使用し、健常者うつ病に罹患した女性患者の二群に対して、家事労働・賃金労働上のストレス調査を実施した。それらからうつ病の女性が賃金労働・家事労働上で抱えるストレス要因について解明し、それらの特徴とうつ病との関連性について解析を実施した。

助成金額（円）：600,000 円

キーワード：うつ病・労働・家事・女性

1. 研究の背景

現在、精神科リハビリテーションの分野においては、うつ病により賃金労働を休職した男性に対する復職支援が多く行われている¹⁾²⁾³⁾⁴⁾。一方で女性に特化した支援はほとんど行われていない⁵⁾。しかし女性のうつ病罹患率は男性の 2 倍であり、支援を必要とする対象者は多い。加えて女性の労働には家事労働という要素が含まれており⁶⁾、新たな支援方法の開発が必要であると考えられる。また支援方法の開発には介入の標的となる対象者の抱える問題点、すなわち労働上のストレス要因の解明が必要である。家事労働の領域では複数の先行研究が実施されている⁷⁻¹⁰⁾が、その数は賃金労働と比較すると圧倒的に少なく、いくつかの問題点を有している。

2. 研究の目的

そこで本研究は、それらを踏まえ、3 つの視点から調査を実施する。

一点目として、労働の持つストレス要因に着眼して、賃金労働・家事労働を全体から捉えられるような評価表を作成し、信頼性を確認する（以下研究 1）。また二点目として、その調査表を用いて調査を実施し、うつ病女性の労働上のストレス要因特徴を、健常者と比較することで明らかにする（以下研究 2）。三点目として賃金労働及び家事労働におけるストレス要因の中からうつ病に影響を及ぼすと考えられる要因について検討を行う（以下研究 3）。

3・4 研究の方法・成果

【研究 1】

方法：信頼性・妥当性が得られており賃金

労働の総合的なストレス調査票である NIOSH 職業性ストレス調査票¹¹⁻¹²⁾をベースとし、その中で家事労働と賃金労働、同一の視点を持って比較検討できる尺度部分を抽出し、家事労働版 NIOSH 調査票 (NIOSH-HK) (70 項目) を作成した。またその信頼性の調査として、30 名の健常女性に設問の適切性と NIOSH 職業性ストレス調査票との観点の一致について調査を実施した。その結果 2 割以上の対象者が不適切、観点の不一致を答えた設問については削除した。

結果: 5 項目が内容の適切性を確保できず、6 項目が観点の一致性を確保できなかった。11 項目を除いた 59 項目を家事労働版 NIOSH 調査票として研究 2 以降で使用した。

【研究 2】

方法：就労しているうつ病女性 58 名・健常女性 58 名に対して、NIOSH 職業性ストレス調査票、NIOSH-HK を実施した。

また就労していないうつ病女性 38 名・健常女性 38 名に対して NIOSH-HK を実施した。各対象者に取り込み基準、除外基準を設け、うつ病就労女性 45 名、健常就労女性 45 名、うつ病非就労女性 35 名、健常非就労女性 35 名を解析対象とした。

解析：各調査票について①就労している対象者については、賃金労働と家事労働の比較、うつ病の有無での違いを二元配置分散分析混合計画にて解析した。また②家事労働のみについて、就労の有無での違い、うつ病の有無での違いについて、二元配置分散分析にて検討した。

結果：①まず賃金労働と比較した場合、家事労働におけるストレス要因特徴として、労働の裁量権が大きい、量的な労働負荷に対するストレスは賃金労働と同等である、

記憶や注意などの認知的要求は賃金労働より少ない、得られる支援は賃金労働より少ないという点が示唆された。

また健常者とうつ病対象者との比較では、賃金労働と家事労働の違いによるストレス傾向は調査対象 7 尺度中 6 尺度にて健常者とうつ病対象者で同傾向を示したが、賃金労働における量的な負荷はうつ病対象者で有意にストレスが高く、うつ病対象者の特異的な点であると示唆された。またうつ病の有無によるストレス度の違いは 7 尺度中 6 尺度にてうつ病対象者が有意にストレスの高い結果となった。

②次に、就労の有無における家事労働上のストレス要因の違いでは、就労の有無にかかわらず、うつ病対象者で対人葛藤、裁量権、社会的支援において高ストレス状況が示された。またうつ病の有無にかかわらず、就労している者で量的労働負荷、労働負荷の変動において高ストレスが示唆された。また健常就労者では技能の低活用のストレス状況が有意に低いことが示唆された。

【研究 3】

方法：就労しているうつ病女性 30 名、健常女性 30 名に対して、NIOSH 職業性ストレス調査票、NIOSH-HK を実施した。

解析：各調査票の計 14 尺度の得点とうつ病の有無を、ロジスティック回帰分析にて解析した。

結果：賃金労働での「社会的支援」(オッズ比 (OR)=0.25,95 % 信頼区間 (CI)=0.10-0.63)、「量的労働負荷」(OR=1.15,(CI)=1.06-1.25)、家事労働での「技能の低活用」(OR=1.46,CI=1.11-1.90)の 3 項目がうつ病と関連を示した。

5. 文献

- 1)五十嵐良雄：リワークプログラムの広がりにもみる現代的な意義.臨床精神医学 41:1503-1508.2012
林俊秀,五十嵐良雄：リワークプログラムの標準化.臨床精神医学 41:1509-1519.2012
- 2)岡崎渉：うつ病の復職支援(解説).作業療法 27 卷:613-617.2008
- 3)牧賢美：【OT が取り組むうつ病】 復職支援での作業療法 桜が丘病院での取り組み(解説/特集).作業療法ジャーナル 45: 435-441.2011
加藤 ちえ, 岸 展江, 菅原 由衣, 北川 信樹, 賀古 勇輝, 渡邊 紀子, 川井 朋子:
- 4)うつ病患者に対する職場復帰支援プログラムの取り組み.北海道作業療法 26: 34-43.2009
- 5)田村幸子, 多田敏子：日本におけるうつ病患者の職場復帰に関連する文献検討. 地域保健 41 : 72-77,2011
- 6)平成 23 年度生活基本調査 調査の結果 (統計局ホームページ). (オンライン), 入手先
< <http://www.stat.go.jp/data/shakai/2011/gaiyou.htm> >, (参照 2013-04-15)
- 7)Kristi Williams, Lianem Kurina: The Social Structure, Stress, and Women's Health: CLINICAL OBSTETRICS AND GYNECOLOGY 45:1099-1118.2002
- 8)Oliver Hämmig, Felix Gutzwiller¹ and Georg Bauer : Work-life conflict and associations with work- and nonwork-related factors and with physical and mental health outcomes: a nationally representative cross-sectional study in Switzerland. BMC Public Health 9:435-450.2009

- 9)Sarah Rosenfield: The Effects of Women's Employment: Personal Control and Sex Differences in Mental Health. Journal of Health and Social Behavior 30: 77-91.1989
- 10)Keva Glynn, Heather Maclean, Tonia Forte, Marsha Cohen :The Association between Role Overload and Women's Mental Health. JOURNAL OF WOMEN'S HEALTH 18:217-223. 2009
- 11)原谷隆史：多様な職業性ストレス調査票の効果と限界. 精神科治療学 26(1): 55-59, 2011
- 12)原谷隆史, 川上憲人, 荒記俊一：日本語版 NIOSH 職業性ストレス調査票の信頼性及び妥当性. 産業医学 35 : 214-215, 1993

6. 論文掲載情報

- ・就労女性における家事労働上のストレス要因特徴—家事労働版 NIOSH ストレス調査票の作成とそれを用いた調査—, 星野藍子,鈴木國文,諏訪真美, 作業療法, 32 卷 4 号 (頁: 335-344), 2013 年
- ・就労うつ病女性の家事労働・賃金労働それぞれにおけるストレス要因特徴, 星野藍子,鈴木國文,諏訪真美, 作業療法, 33 卷 1 号 (頁: 42-51), 2014 年
- ・うつ病女性の家事労働におけるストレス状況, 星野藍子,鈴木國文,諏訪真美, 精神科治療学, 297 卷 7 号 (頁: 933-939), 2014 年

7. 研究組織

(1) 研究代表者

氏名：星野藍子

所属：名古屋大学大学院医学系研究科 リハビリテーション療法学専攻

会員番号：24409

(2) 共同研究者

氏名：渡部貴史

所属：医療法人八誠会 守山荘病院

氏名：毛利将平
所属：医療法人成精会 刈谷病院

氏名：後藤有沙
所属：医療法人成精会 刈谷病院

氏名：中川与四郎
所属：中部大学

氏名：水野準也
所属：独立行政法人国立病院機構 東尾張
病院

氏名：鈴木國文
所属：名古屋大学大学院医学系研究科 リ
ハビリテーション療法学専攻

氏名：諏訪真美
所属：愛知淑徳大学健康医療福祉学部